

Japan Association for Industrial Education (JAIE)
Japan Academic Society for Industrial Education (JASIE)

第33回 工業教育全国研究大会

総会資料

Society5.0 時代を担う人材育成
～ 持続可能な社会の創り手の育成にむけて ～

令和5年（2023）7月

主 催 日本工業教育経営研究会
日本工業技術教育学会

後 援 東京都教育委員会
公益社団法人 全国工業高等学校長協会

目 次

あいさつ

全国研究協議会の開催にあたって 日本工業教育経営研究会 会長 棟方 克夫
新しい時代に適応できる学会であるには 日本工業技術教育学会 会長 早川 信一

1 第33回 工業教育全国研究大会への歩みと今後の取組について	4
2 令和5年度(2023)研究活動方針	4
3 研究会・学会のあり方について	5
4 第33回 日本工業教育経営研究会・日本工業技術教育学会 総会議決	6
(1) 第32回 工業教育全国研究大会総会の成立について	
(2) 総会議事	
○ 第一号議案 / 令和4年度 事業報告	
○ 第二号議案 / 令和4年度 決算、会計監査報告	
○ 第三号議案 / 令和4年・5年度 日本工業教育経営研究会役員	
○ 第四号議案 / 令和4年・5年度 日本工業技術教育学会役員	
○ 第五号議案 / 令和5年度事業	
○ 第六号議案 / 令和5年度予算	
5 日本工業教育経営研究会(略称・工経研)会則	12
6 日本工業技術教育学会 会則	13
7 各支部報告	15
8 研究協議Ⅰ 講話・講演	
(1) 講 話 (資料別冊)	
工業教育と魅力ある学校づくり ～学習指導要領の着実な実施を～	
文部科学省国立教育政策研究所教育課程研究センター	
研究開発部教育課程調査官 内藤 敬 様	
(2) 講 演 (資料別冊)	
工業高校の現状と課題 ～新しい取組について～	
公益社団法人 全国工業高等学校長協会理事長	
東京都立六郷工科高等学校長 福田 健昌 様	
9 研究協議Ⅱ (資料別冊) 合計11題の発表	
第1分科会(学術論文)	
第2分科会(工業教育の活性化)	
第3分科会(『課題研究』など実践報告)	
第4分科会(学校の個性化・特色化教育、学校運営の課題と方策)	

令和5年度 全国研究協議会の開催にあたって

日本工業教育経営研究会 会長 棟方 克夫

令和5年度全国研究協議会が拓殖大学文京キャンパスにおきまして、開催されますことを心から感謝申し上げます。

主題を「Society5.0 時代を担う人材育成」～持続可能な社会の創り手の育成にむけて～といたしました。

「持続可能な社会の創り手の育成」は、令和5年から令和9年度の次期教育振興基本計画のコンセプトとして、中央教育審議会の答申で示されたものです。

教育振興基本計画は、将来の予測が困難な時代において教育政策の進むべき方向性を示す「羅針盤」となる総合計画とされています。工業技術教育の在り方を示す羅針盤として注目していきたいと存じます。

さて、Society5.0 時代は、日本の得意とする「ものづくり」とデジタルの技術を融合した時代となります。ものをネットワークでつなぐIoTやAIが導入される時代に大きく変化しています。人工知能が広く社会に普及することで、求められる人材が大きく変化することは、今後の教育を考える上で大きな視点となると思われます。これからの時代は、手に入れた知識を活用し、出合ったこともない問題を自分たちの力で解決したり、さまざまな人と新しいアイデアを生み出したりすることが必要になってくると言われています。このような社会の変化に工業教育がどのように対応すべきかが問われています。

本日の文部科学省内敬先生の講話では、「工業教育の充実・振興に向けて」、全国工業高等学校長協会理事長の福田健昌先生の講演では、「全国の工業高校の動向」についてお話を聴けることを楽しみにしております。

また、研究発表では、高校と大学の先生方により発表があります。今後の工業教育を考える上で大切な視座となるものと考えます。

今、ものづくりの現場では、最先端の技術の導入が進むとともに、ITスキルを駆使し、創造的活動を担う人材の育成が急務となっています。皆様と共に、「持続可能な社会の創り手の育成」の実現に向けた工業高校の在り方を研究していきたいと存じます。

結びになりますが、素晴らしい会場をご提供いただきました拓殖大学様をはじめ、関係者の皆様に、あらためてお礼を申し上げますとともに、ご参加の皆様のますますのご健勝とご活躍を心より祈念し、挨拶といたします。



(参考) ESDの基本的な考え方(概念図) 文部科学省 日本ユネスコ国内委員会「持続可能な開発のための教育(ESD: Education for Sustainable Development)」より <https://www.mext.go.jp/unesco/>

新しい時代に適応できる学会であるには

日本工業技術教育学会 会長 早川 信一

工業教育全国研究大会は、コロナウイルス感染症の影響を受けて、この3年間は対面式による開催を断念し、講演及び研究発表は誌上発表の形で行われました。そして、4年振りに2023年7月に第33回工業教育全国研究大会が開催されることになりました。私自身、はじめてそのような時間を会員の皆様と対面で共有できることを大変楽しみにしておりました。

まさに激震の3年間となりましたが、コロナのようなパンデミックに対しての社会の脆弱性をあらためて感じさせられたような気がいたします。しかし、教育界はこの機会を新しい学びのスタートとして捉え、多くの学校では新しい教育を展開する絶好の機会として動き出したのではないのでしょうか。そんな中、昨年12月には「日本工業教育経営研究会・日本工業技術教育学会 関東支部総会・研究協議会（東京大会）」（於：拓殖大学文京キャンパス）を対面式とリモートによるハイブリット形式で開催することができました。これまでになかった方式を取り入れ開催できましたことに、ご準備いただきました先生方には大変感謝しております。

個人的には未だリモートでお互いが同期できているのだろうか、と感じてしまうのはやはり考え方が古いのかもかもしれません。しかし、リモートによる方式は、今後もさまざまな教育現場で新しい方法の一つとして活用されていくことは間違いありません。したがって、今回の全国研究大会においてもリモートを併用して、ご参加いただくことも可能としております。

最近の教育界の動きについては、新型コロナウイルスの影響をはじめ、新学習指導要領の方針や重要なテーマ、そのポイント、高校改革などさまざまな内容を示しながら対応等について述べていくことも大切ですが、まずは研究会・学会として、本会が新しい時代に対応するためには何が必要なのか、何ができるのか、具体的な方策を考え示していく必要があるのだろうと強く感じております。今年度から愛知県に続き、東京都でも「工業高校」という名称がなくなり、すべての工業高校は「工科高校」に変更されました。このような新しい改革の時に、本会がどのように関わっていいのか、大変重要なタイミングではないでしょうか。

これまで日本の工業教育について、真摯に取り組んできた日本工業教育経営研究会・日本工業技術教育学会が多くの工業科教員に浸透しなかったことや、他の学会同様に会員数が減少している原因を考えながら、本大会を機会に少しずつでも具体的な行動を起こすときであろうと考えます。現役の若い先生方の勧誘や技術・工業・科学技術に興味を持つ中学生、高校生を増やしていくための取組を進めるために、いまできることは何かを会員の皆さんと共有できればと思います。会員の皆様からのご意見、お声かけ、お知恵をいただければ幸いです。

日本工業技術教育学会では、これまで夏の工業教育全国研究大会での研究成果等をもとに論文を投稿いただいており、今年度も令和6年3月に学会誌「工業技術教育研究」（第29巻）を発刊する予定です。日本工業教育研究会・日本工業技術教育学会の活動を盛り上げていくためにも、多くの皆様の研究や生徒指導・体験活動等についての投稿をお待ちしております。

最後になりますが、新しい時代に適応できる日本工業教育研究会・日本工業技術教育学会であるために皆様のご支援・ご協力をお願いし、ご挨拶とさせていただきます。

1 第33回 工業教育全国研究大会への歩みと今後の取組について

平素より日本工業教育経営研究会・日本工業技術教育学会の活動に対して、ご支援ご協力をいただきお礼申し上げます。

さて、新型コロナウイルスの感染拡大が続き昨年度まで各方面の研究会等も会議の開催には慎重な対応が求められてきました。本会におきましても、活動が抑制される大変厳しい時間となって令和4年度第32回工業教育全国研究大会は対面開催を中止し、研究報告等を掲載した書面開催（公式ホームページ掲載）とさせていただきます。関係の皆様には多大なるご迷惑をおかけしましたことを改めてお詫びしご報告申し上げます。

本大会が目指すところの「我が国の技術・技能を支える工業教育の推進」（令和4年度大会主題）は、閉塞感を覚える中にあっても輝きを放つものと考えます。研修の歩みを止めてはなりません。

「令和の日本型学校教育」や「Society5.0 時代」、或いは「持続可能な社会」などの諸提言を受け、さらには本会運営の諸課題を踏まえて教育実践者、研究者にとって必要とされる研究・研修活動を維持継続する必要があります。

ここに、第33回工業教育全国研究大会のテーマ「Society5.0 時代を担う人材育成 ～持続可能な社会の創り手の育成にむけて～」を掲げ、会員をはじめ関係機関の皆様と知見の共有を図るべく研究協議資料を配布いたします。

今後も、本研究会の活動趣旨に沿う教育活動の実践と研究成果の投稿をお願い申し上げます。

2 令和5年度(2023)研究活動方針

工業科を設置する高等学校における学校経営向上のための研究及び工業技術教育に関する研究を進め、工業技術教育の振興に寄与することを目的とし、以下の教育研究を推進する。

- 学科改編や教育課程の改善、科学技術教育、および関連領域などにおける工業教育を創造・発信するカリキュラム・マネジメントに関する教育研究
- ものづくり教材の開発、主体的・対話的で深い学びの実践など指導内容・方法の改善に関する教育研究
- 資格取得や競技会等への挑戦など学習意欲を高める実践的な教育研究
- 地域産業と次代を担う工業技術者を育てる教育研究
- 社会の変化に対応し課題解決を図る人間性豊かな職業人を育てる教育研究
- IT や AI など科学技術の高度化や情報技術の発展、グローバル化の進展に対応した資質・能力育成に関する教育研究
- 会員にとって魅力ある研究会・学会組織に向けた今後の在り方についての立案と策定

3 研究会・学会の今後の在り方について

特設委員会 組織の在り方検討委員会

実績を踏まえて

1991年(平成3年)7月6日・7日に第1回日本工業教育経営研究大会の総会・研究協議会が開催されてから32年が過ぎました。その間、本研究会・学会は、高校や大学の学校関係者をはじめ産業界の方々に向けて、工業教育に関する先進的な研究や諸外国との比較調査を積極的に行い、全国各支部に活躍する会員らにより、それぞれの立ち位置から成果の還元を図り我が国の工業教育の充実・発展に多大な貢献をしてきました。

社会経済の変動にも関わらず、社員一人一人を大切にすドイツの大手IT企業にマイスターの誇り高さ姿勢を見たことや有意な人材育成を担う大学など専門教育システムと学校の視察は、新たな知見に触れるとても有意義な機会となりました。また、貧しさの中にも学ぶ意欲を持ち続けてきたネパールの山間部の学校に継続的にかかわり教育の原点を確かめた30年に及ぶ歩みは、創立30周年記念誌にも記されているとおりです。まさに、他の団体にはない実績であると考えます。

影を落としたコロナ禍と課題

しかしながら、昨今のコロナ禍の影響は避け難く、会員数の減少をはじめ会費徴収の課題など運営そのものに支障をきたしております。意欲的な活動が見られた支部の活動も一部を除いて休眠状態にあります。また、研究発表の応募数の減少や研究会と学会の活動が分かりにくいとの声、運営の合理化や軽量化に関するご指摘もあり、様々な課題が見えてきました。

新たな時代に向けて大きく変化してきたことを踏まえ、本研究会・学会の意義、全国大会の在り方などについて検討する委員会を両会長のもとに設置し「組織の在り方検討委員会」

(2021)として活動を開始しました。行動制限があるなかりリモート会議を重ねて課題点の整理などを行っております。会員の皆様にとって魅力ある研究会・学会組織に向けた今後の在り方について、立案と策定に向け進めてまいります。

皆さんの声を支えに

本委員会では、臨時全国理事会をリモート開催(令和5年6月18日)し、本会の現況と課題について取り上げ各支部代表者や理事より貴重なご意見をいただくことができました。

ついでに、今後、課題解決に向けてアンケート調査を実施し、調査結果の検討と還元を図るべく今後も必要な会議をリモートで開催し情報共有に努めたいと考えております。積極的なご参加を期待しております。

【お願い】

会計負担の軽減を図るため、本大会より公式ホームページを活用し、開催案内やフォームによる申し込みなど電子媒体による通信連絡に移行をはじめました。今後しばらくは、諸経費の節減とスピード感のある会務運営のため試み続ける予定です。種々ご不便をおかけしますが、御理解とご協力をお願い申し上げます。

4 第33回 日本工業教育経営研究会・日本工業技術教育学会 **総会議事**

(1) 第33回 工業教育全国研究大会総会の成立について

日本工業教育経営研究会会則第18条、日本工業技術教育学会会則第14条の規定により本総会は成立した

日本工業教育経営研究会 会長 棟方 克夫

日本工業技術教育学会 会長 早川 信一

(2) 総会議事

第一号議案 令和4年度 事業報告

- ・第32回 総会・研究協議会は新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、工業教育全国研究大会の対面開催を中止し書面による開催とし本会公式ホームページに公開した。
- ・研究協議（紙面発表） ※公式ホームページに概要を公開した。

第1分科会（学会論文）	
1	海流発電用タービンの設計を題材としたCAD学習の提案 ～工業高等学校課題研究の題材として～ 埼玉大学 教授 山本 利一 筑波大学坂戸高等学校（非常勤講師） 川田 有輝 茨城大学 教授 工藤 雄司 佐賀大学 教授 角 和博
2	特色ある工業高等学校をめざして 千葉県立千葉工高 校長 草刈 廣直
第2分科会（学会論文）	
1	諸外国の産業教育から見た今後の日本の技術・工業科教育 日本工業教育経営研究会 理事 石坂 政俊
2	工学的視点に基づいた教科「理数」向け教材の開発 芝浦工業大学大学院 中田 星矢 芝浦工業大学 教授 牧下 英世
第3分科会（工業教育の活性化）	
1	専門高校における産業教育の充実と人材育成 ～イノベーションを起こす「多角的ものづくりスキル」を身に付けた人づくり～ 北海道札幌工業高等学校 主幹教諭 梶 邦明
2	「地域連携」と「アップサイクル」による新たな消費価値を創造する 埼玉県立川越工業高等学校 教諭 安藤 緋奈子
3	「プラごみ問題」をテーマとした取組② 愛媛県立吉田高校 教頭 井原 進一
4	教員養成系大学における工業科教員養成の現状と課題 神奈川工科大学 教授 門田 和雄
第4分科会（課題研究・個性化・特色化教育）	
1	本校における地域連携（課題研究での取り組み） 岐阜県立大垣工業高等学校 佐久間 英謙
2	工業科における「課題研究」と「総合的な探求の時間」の一考察 ～探求のルールや方法を学ぶ「理数探求基礎」の教科書通読～ 大和大学 西大和学園 中学・高等学校 光永 文彦
3	デザイン科における知的財産教育の研究 神奈川県立神奈川工業高等学校 総括教諭 前澤 喜仁

・刊行物

第32回 工業教育全国研究大会資料 令和5年3月発行（公式ホームページに公開）
学会誌第28巻 令和4年3月31日発行（同上）

第二号議案 令和4年度 決算・会計監査報告

令和4年度決算書

令和5年3月31日

I 収入の部

科 目	予 算	決 算	増 減	備 考
① 前年度繰越金	174,747	174,747	0	
② 年会費	350,000	320,000	△ 30,000	正会員 60名 300,000 円 賛助会員 1社 20,000 円
③ 雑収入	0	1	1	利子等
合 計	524,747	494,748	△ 29,999	

II 支出の部

科 目	予 算	決 算	増 減	備 考
① 会議費	6,000	6,600	600	会場使用料 4,400+2200
② 通信連絡費	30,000	250	△ 29,750	郵券、会報・学会誌送料
③ 会報発行費	80,000	0	△ 80,000	会報第 56 号印刷費
④ 総会費	50,000	0	△ 50,000	全国大会補助
⑤ 事務費	30,000	14,892	△ 15,108	用紙、インク、文房具等
⑥ 支部補助費	0	0	0	支部補助
⑦ 学会費	100,000	96,410	△ 3,590	第 28 巻印刷費 91,410 査読等 5,000
⑧ 予備費	122,937	0	△ 122,937	30 周年準備、支部総会出張等
合 計	418,937	118,152	△ 300,785	

III 差引残高

総収入	総支出	次年度繰越金
494,748	118,152	376,596

IV 会計監査報告

令和5年5月13日

会計諸帳簿、伝票等を監査した結果、適正に執行されていることを認めます。

会計監事 松井 正夫 印

会計監事 長田 利彦 印

第三号議案 令和4年・5年度 日本工業教育経営研究会役員

現職は○

役 職	氏 名	所 属 等	備 考	
会 長	棟方 克夫	日本大学	○	
副会長	池田 尚志	札幌工業高等学校	北海道支部長	
	佐竹 清一	山形県新庄神室産業高等学校	東北支部長	
	後藤 博史	全国工業高等学校長協会研究所	関東支部長 ○	
	田中 正一	元埼玉県立大宮工業高等学校		
	豊田 善敬	東京電機大学	○	
	篠原 俊一郎	富山県立富山工業高等学校	北信越支部長 ○	
	村戸 徹	石川県立工業高等学校	○	
	三輪 智英	兵庫県立姫路工業高等学校	近畿支部長 ○	
	阿部 政之	大阪府立今宮工科高等学校	○	
	岩井 高士	兵庫県立尼崎工業高等学校	○	
	原田 敦史	日本文理大学	九州支部長 ○	
理 事	池田 尚志	札幌工業高等学校		
	福井 誠	札幌琴似工業高等学校		
	猪股 康行	札幌工業高等学校		
	太田 潤一	札幌工業高等学校	○	
	宮岡 勝郎	札幌琴似工業高等学校	○	
	佐々木 健	秋田県立由利工業高等学校		
	藤原 修	岩手県立一関工業高等学校		
	齋藤 悟	山形県立長井工業高等学校		
	渡邊 秀雄	福島県立会津工業高等学校		
	佐藤 正道	福島県立二本松工業高等学校		
	河村 一郎	山形県立長井工業高等学校	東北支部事務局長	
	毛利 昭	東京都立王子工業高等学校		
	石坂 政俊	東京都立町田工業高等学校	関東支部事務局長	
	堀口 真史	埼玉県立浦和工業高等学校	○	
	高橋 勉	埼玉県立川越工業高等学校	○	
	鈴木 誠	東京都立府中工業高等学校	○	
	橋本 広明	全国工業高等学校長協会研究所	○	
	宍戸 健一	神奈川県立横須賀工業高等学校	○	
	片受 健一	神奈川県立神奈川工業高等学校	○	
	草刈 廣直	千葉県立千葉工業高等学校	○	
	小杉 克彦	金沢工業大学	○	
	奥嶋 建城	澁谷ものづくり人材育成研究所		
	小田 旨計	大阪府立城東工業高等学校		
	大澤 宣彦	大阪府立淀川工科高等学校		
	雨河 祐二	神戸松陰女子学院大学	○	
	戸田 哲也	大分国際情報高等学校		
	評議員	榎本 哲史	札幌工業高等学校	支部事務局長 ○
		長田 淳	札幌琴似工業高等学校	○

	佐藤 隆志	福島県立小高産業技術高等学校	○
	小杉 哲也	東京都立多摩科学技術高等学校	○
	柳坂 武司	東京都立世田谷泉高等学校	○
	渡部 憲治郎	神奈川県立神奈川工業高等学校	
	荒川 昇	長野県長野工業高等学校	○
	福井 勉	石川県立羽咋工業高等学校	○
	中西 淳一	大阪府立淀川工科高等学校	
	秦 二三男	大阪府立淀川工科高等学校	
	戸谷 裕明	堺市立堺高等学校	○
	安田 裕輝	大阪府立淀川工科高等学校	支部事務局長 ○
	井原 進一	愛媛県立新居浜工業高等学校	○
	高橋 祐樹	愛媛県立今治工業高等学校	○
	本田 洋之	熊本県立玉名工業高等学校	○
監 事	松井 正夫	京都市立洛陽工業高等学校	
	長田 利彦	神奈川県立小田原城北工業高等学校	
事務局	菊池 貞介	日本大学	事務局長 ○
	中曾根 康	群馬県立前橋工業高等学校	○
顧 問	吉岡 昇	札幌工業高等学校	
	眞野 満男	札幌工業高等学校	
	武部 良平	札幌工業高等学校	
	四宮 知之	札幌琴似工業高等学校	
	佐藤 俊	札幌工業高等学校	
	遠藤 正友	山形県立米沢工業高等学校	
	川原 利夫	岩手県立盛岡工業高等学校	
	木村 弘	埼玉県立大宮工業高等学校	
	浅岡 廣一	東京都立蔵前工業高等学校	
	正一 恂	神奈川県立川崎工業高等学校	
	加藤 登佑	神奈川県立平塚工業高等学校	
	梅田 政勝	神奈川県立神奈川工業高等学校	
	河西 靖男	長野県長野工業高等学校	
	藤田 信雄	新潟県立柏崎工業高等学校	
	北野 左京	福井県立科学技術高等学校	
	川嶋 繁勝	旧愛知県立愛知工業高等学校	
	蜂須賀 豊	旧愛知県立愛知工業高等学校	
	高橋 一夫	大阪府立藤井寺工業高等学校	
	上出 満	京都美術工芸大学	○
	古賀 史郎	大阪府立今宮工業高等学校	
	難波 泰朗	岡山県立岡山工業高等学校	

賛助会員

名 称	所 在 地
実教出版株式会社	東京都千代田区五番町 5

第四号議案 令和4年5年度 日本工業技術教育学会役員

現職は○

役職	氏名	所属等	備考
会長	早川 信一	拓殖大学	○
副会長	山下 省蔵	拓殖大学	
	巽 公一	拓殖大学	
	池守 滋	足利大学	○
	工藤 雄司	茨城大学	○
	本村 猛能	日本工業大学	○
	伊藤 茂樹	北海道情報大学	○
	仲道 嘉男	東京工業大学附属科学技術高等学校	○
	理事	房野 俊夫	佐世保工業高等専門学校
森山 潤		兵庫教育大学	○
堀 桂太郎		神戸女子短期大学	○
及川 久遠		大和大学	○
山口 敏和		江戸川大学	○
大矢 二郎		北海道東海大学	
門田 和雄		神奈川工科大学	○
西野 洋介		東京都立多摩科学技術高等学校	○
監事	松井 正夫	京都市立洛陽工業高等学校	
	長田 利彦	神奈川県立小田原城北工業高等学校	
事務局	菊池 貞介	日本大学	○
顧問	油浅 耕三	新潟工科大学	
	三谷 和夫	日本大学	

第五号議案 令和5年度事業計画

- ・第33回工業教育全国研究大会
 - 1 主催 日本工業教育経営研究会・日本工業技術教育学会
 - 2 後援 東京都教育委員会 / 公益社団法人 全国工業高等学校長協会
 - 3 日時 令和5年7月8日(土) 一般受付 12:30~13:00
 - 4 拓殖大学文京キャンパス 東京都文京区小日向3-4-14
全国理事会 / 総会 / 研究協議会 / 講話 / 講演 / 4分科会場で研究発
 - 5 創立30周年記念祝賀会 17:30~19:30 E館展望ラウンジ
- ・第57号会報 令和5年10月発行予定(公式ホームページ公開、一部配送)
- ・第33回 工業教育全国研究大会資料 令和5年7月発行(同上)
- ・創立30周年記念誌「次世代を担う 技術・工業教育の創出」令和4年12月10日発行
編集委員長: 豊田善敬 表紙デザイン: 埼玉県立川越工業高等学校 菅田七虹 A4判 120ページ
- ・学会誌第29巻 令和6年3月発行予定(同上)
- ・支部総会・研究協議会

○ 今年度の支部活動のお知らせ

◇ 北信越支部石川大会 主題: 「我が国の技術を支える工業教育の推進」

- ・ 期 日 令和5年8月26日(土)
- ・ 会 場 金沢ニューグランドホテル
- ・ 大会事務局 石川県立羽咋工業高等学校 一谷・二木 hakukh@ishikawa-c.ed.jp

◇ 東北支部大会

コロナ禍で中止が続いていた東北地区の大会ですが、今年度は次の通りに開催予定です。

- ・ 開催日 令和5年11月25日(土) 1日開催
- ・ 場 所 福島県郡山市 日本大学工学部
- ・ 日本工業教育経営研究会 東北支部 事務局 河村一郎 kawakawamail@yahoo.co.jp

○ 関東支部 令和5年12月予定 拓殖大学文京キャンパス

○ 北海道支部 調整中

第六号議案 令和5年度予算

I 収入の部

科 目	前年度予算	本年度予算	増 減	備 考
① 前年度繰越金	174,747	376,596	201,849	
② 年会費	350,000	220,000	△ 130,000	正会員 40名 200,000円 賛助会員 1件 20,000円
③ 雑収入	0	0	0	利子等
合 計	524,747	596,596	71,849	

II 支出の部

科 目	前年度予算	本年度予算	増 減	備 考
① 会議費	6,000	15,000	9,000	会場使用料
② 通信連絡費	30,000	30,000	0	郵券、会報・学会誌送料
③ 会報発行費	80,000	40,000	△ 40,000	会報第56号印刷費
④ 総会費	50,000	40,000	△ 10,000	全国大会補助
⑤ 事務費	30,000	30,000	0	用紙、インク、文房具等
⑥ 支部補助費	0	40,000	40,000	支部補助
⑦ 学会費	100,000	100,000	0	第29巻印刷費・査読等
⑧ 予備費	122,937	301,596	178,659	記念誌本部買取 150冊 (300,000) 他
合 計	418,937	596,596	177,659	

令和5年4月28日
事務局長 菊池 貞介